

平成28年度「学校マニフェスト」と結果・検証

項目	マニフェスト具体的内容(重点項目)	数値目標	結果及びその検証
	<p>○学年・学級を越えた生徒同士の「学び合い」や「語り合い」による学力向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部指導者を招いての授業研究会を年間3回実施する。 ・全国学力学習状況調査や標準学力検査の数値が県平均以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会は1学期に中京大学杉江教授、2学期に上越教育大学赤坂准教授、3学期に目白大学多田教授を招き計3回実施した。 ・全国学力学習状況調査は県平均以上(0.1~14.8ポイント上回る)。標準学力調査の全教科平均値で2年生は10.7ポイント、3年生は7.2ポイント全国平均以上。 ・協同学習(注1)の理念での取り組みの成果が出たものにとらえている。
	<p>○「ピア・サポート(注2)」、「SEL(社会性と情動の学習)」などコミュニケーションスキルの指導を行い、仲間づくりの基盤づくりを行う。</p> <p>○「共汗(共感)」「あいさつ」「学び合い」の重点行動目標の実践を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動目標の学校評価アンケート(生徒)で肯定的評価が8割以上 ・地域や学校評価アンケート(保護者)で肯定的評価が8割以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート(生徒)の関連10項目で目標達成は7つだった。協同学習を進めるうえで、基盤となるものが仲間づくりであり、そのためにコミュニケーションのスキル・アップが必要である。 ・学校内や登下校中のあいさつについては学校評価アンケート(保護者)や地域からの肯定的評価は81.0%であったが、自主学習について保護者は厳しい評価(肯定的評価は52%)であった。子どもと教師の関わりについて5項目中4項目で目標達成(1項目は78%)、今後も保護者との連携を深めていきたい。
	<p>○小中共通の協同学習の研究実践を進める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫の教育活動や、教員・児童生徒の交流を学期1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育担当者会を毎月、拡大担当者会は毎学期の実施、各学期(6月、11月、2月)に小中の全教員参加による授業研究会を実施。1学期に生徒会の小学校訪問(7月)、2学期に小中学校合同による「あいみ・ふれあ

		<p>いウォーク」(10月)を実施、また、6年生の部活動体験(9月)、3学期に中学校体験学習(2月)を実施した。児童・生徒の交流活動を増やすことで、教師の交流も増えるものと考え、来年度の実践につなげたい。</p>
<p>○配慮や支援が必要な生徒への、組織化・計画的な支援を行う。・必要に応じて随時、臨時的にも支援を行う体制をとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学期1回の支援会議と、定例(月1回を基本とする)のケース会議等を開催する。 ・長期欠席者0(家庭事情を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、生徒の状況について情報交換し、共通理解を図ると共に、学期に1回の支援会議の他、要支援生徒等のケース会議と個別の支援会議や情報交換会を随時実施した。その際に関係機関との連携を図り、町要対協やSSW(注3)、小学校からも参加をしていただき、適切な対応を図るよう努めた(2月までに計27回開催) ・残念ながら長期欠席者(30日以上)が3名(うち、2名は家庭都合、1名は主に病気・体調不良等によるもの)が出たが、関係機関との連携を図りながら、改善に向けていきたい。
<p>○学校、保護者、地域の連携推進と活動の充実を図る。</p>	<p>・連携に関する学校評価アンケートで肯定的評価が7割以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CS交流会(注4)(毎学期の計3回開催)PTAやCS主催の環境整備活動、ふれあいデー、毎月1日・15日のあいさつ運動、5月、9月に下校指導等で地域や保護者との連携行事を行った。関連項目(CS活動を知っているの肯定的評価は56%、学校へ積極的に行こうとしたは73%)を見ると地域との連携に課題が残っている。 ・1月にCS委員とPTA本部役員との意見交換会を行うことができ、CS委員と保護者との共通理解を図る上での取り組みが前進した。今後も、こうした活動や啓発活動を工夫し学校、保護者、地域の連携深めていきたい。

注1、協同学習とは、教師主導の受け身学習ではなく、子どもが主体的に、仲間と対話する中で学び合っていくという考え方のことです。

注2、ピア・サポートとは、子どもたち相互の人間関係を豊かにするための学習で、そこで得た知識やスキルをもとに、仲間を思いやり、支える実践活動を行うものです。

注3、SSWとは、スクール・ソーシャル・ワーカーのことで、日常生活で直面する悩み等を福祉的なアプローチによって解決を支援します。

注4、CSとはコミュニティ・スクール(地域協働学校)の略です。南部町では地域の人と協働して学校づくりに取り組んでいます。